

2023年9月29日(金)

老球の細道753号

9月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

世の中は何かと「分断」という言葉が飛び交う昨今である。今月の生活はまさに3つの分断に分かれた。上旬は、腰痛手術入院の不安を抱えながら、痛みとシビレとつき合う日々。中旬は手術入院の日々、冒険にふさわしい体験で辛くもあり楽しくもあった。下旬は、痛みから解放され「バック・トー・ザ・フューチャー」、昔の動き回れる時代に戻った日々。

1. テレビから

◆「私の幸せは、あなたが笑顔でいることです」〈NHK ニュース『場面緘黙の画家』〉：家庭においても、指導現場においても、おはよう（出会った時）、おやすみ（終わった時）に相手の笑顔を見ることが、どれだけ心の平安を助けることか。そのためにもわが笑顔の日常を。

◆「身土不二」「地産地消」〈NHK『農民作家 山下惣一の生涯』〉：佐賀の農民作家で日本の高度成長期、農産物の輸入自由化が加速した時、農村現場から「食と農の大切さ」を訴え続けた。「地元の旬の食品や伝統食が身体に良い」という意味で、山下氏が作った言葉である。わが地区のバスケットボール育成も「心体不二」「地産地消」でありたいものである。

2. 読書から

◆「その指導を自分が受けたいか。自分の指導を受けて選手はハッピーか。1番はたった1人（1チーム）であとは負け。そのとき、どう考えて行動するか」〈Sport Japan：バレーボールコーチ・斎藤真由美〉：プレイヤーズセンタードのコーチング時代、常にコーチの自己反省、選手とのコミュニケーション、そしてぶれないコーチング哲学が求められる。

◆「昨日の発句は今日の辞世、今日の発句は明日の辞世、我生涯言いすてし句に一句として辞世ならざるはなし」〈『正法眼蔵随聞記講話』講談社：鎌田茂雄〉：道元の「無常を観ずる是れ第一の用心なり」に合わせて記された俳人芭蕉の言葉。毎朝新聞を見る時、真っ先に死亡欄を見る。他人の死を知ることによって自分の死を考えるようになる。明日を期待してはいけない。明日ありと思っただけはいけない。生死事大 無常迅速。

3. 新聞等から

◆「人生はわくわくしている気持ちが大切だ」〈朝日：Re ライフ・三浦雄一郎車いすで挑んだ富士山〉：三浦雄一郎氏が90歳にして車いすで富士山頂に立った。どんな状況においても悲観せず、常に先を見ることが元気の秘密。病院で読んでいたのでグッドタイミングで元気づけられた。改めて「人は希望と共に若く、失望と共に老いる」（詩人ウルマン）。

◆「転ばない人より、起き上がる人へ」〈朝日：バカラ広告キャッチコピー〉：毎晩息子からもらったバカラのグラスでウイスキーを飲むのが一日の締めである。私だったら、「転んだら、転がって起き上がる人へ」。失敗の後に、勢いがついて起き上がれ、さらにビックに。

◆「大逆転勝利 漫画より奇なり バスケ日本代表」〈朝日・かたえくぼ〉：漫画の世界の話はありえないことで満ちているが、これからは「大逆転」は漫画のテーマになりえないのか。